



エコアクション21

環境活動レポート2017

(対象期間 39期 2016年9月～2017年8月)

2017年9月5日作成



伸光写真サービス株式会社

Furano, July 2017

目 次

1.	会社概要	2
2.	対象範囲（認証・登録範囲）	3
3.	環境方針	4
4.	環境目標（今期39期及び中長期目標）	5
5.	環境活動計画（今期 39期）	6
6.	環境目標の実績値・取組結果とその評価（今期 39期）	8
7.	環境活動計画（次期 40期の取組内容）	10
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無	11
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	11



当社は電子業界の最先端技術を積極的に取入れ、人類・社会の進歩発展に貢献し全従業員の幸福を追求します。
当社は様々な分野のプリント配線板の試作品を製作しています。
私たちの製作しているプリント配線板は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

人間活動と環境保全との調和を維持できますように！

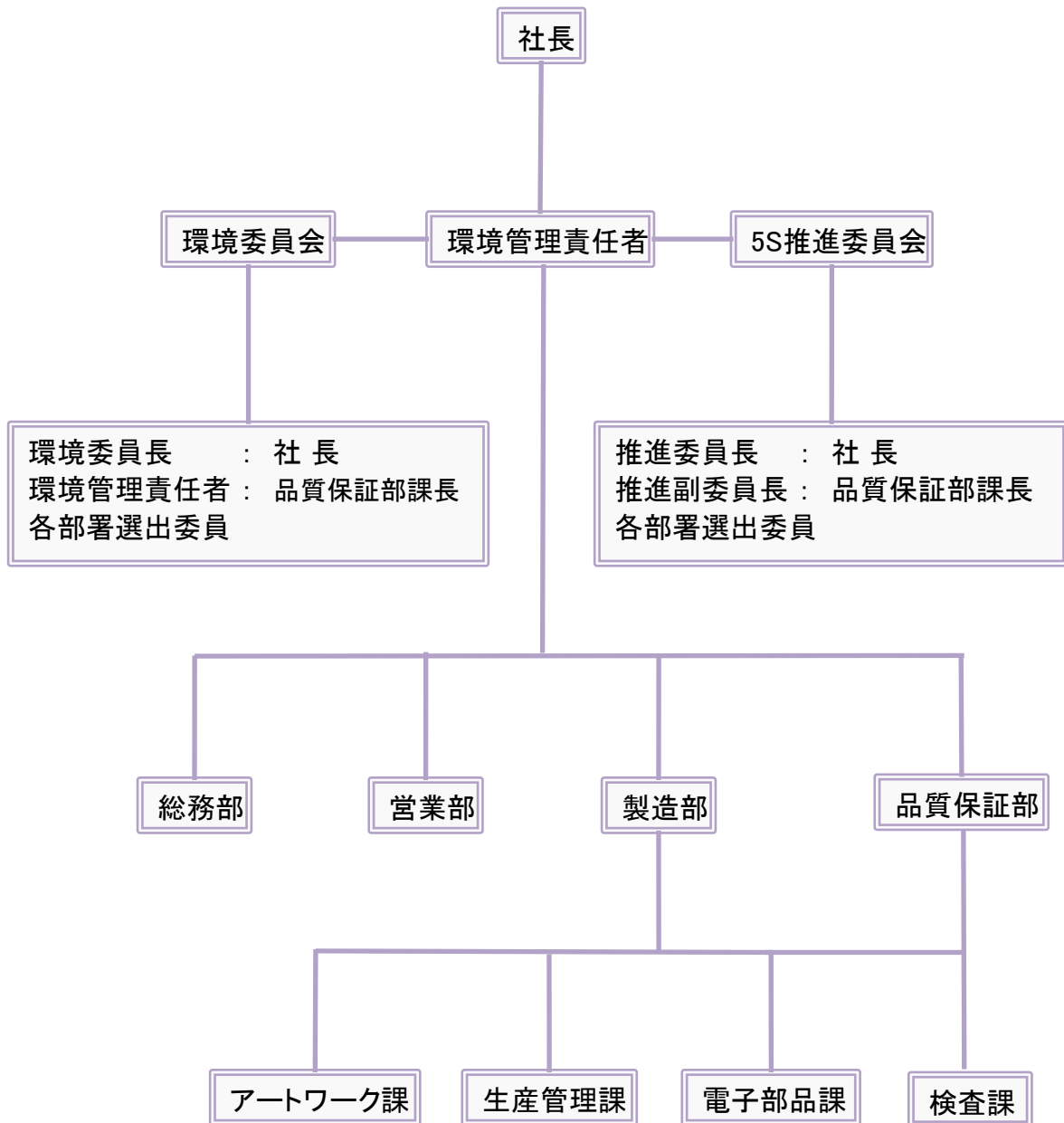
1. 会社概要

所在地	〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18号
設 立	昭和 52 年 7 月 1 日
代表者	代表取締役 今井 俊夫
資本金	3,450万円
環境管理責任者	中島 光洋
連絡先	〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18 TEL : 045(933)8311 FAX : 045(933)8318
事業内容	プリント配線板・メタルエッチング及び 工業用精密マスクの製造
事業の規模	主要製品の生産量 / 出荷額 2.2t / 367百万円 従業員総数 30名 床 面 積 660m ²

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

全社(本社)

※環境管理組織を含みます



3. 環境方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリン・コピー用紙・上水道等の使用量削減を中心とした省エネルギー・省資源活動を行い、CO2の削減に努めると共にグリーン調達を推進します。
- ④ 環境に配慮した製品・サービス・生産活動及び製品品質の向上を通し、顧客や社会に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。
この環境方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日2005年06月20日
改定日2016年06月08日
伸光写真サービス株式会社
代表取締役 今井俊夫

4. 環境目標(今期及び中長期目標)

環境目的	環境目標/年	3カ年計画		
		39期(2017年)目標	40期(2018年)目標	41期(2019年)目標
省エネルギー (二酸化炭素排出量の削減)	電力使用量 (Kw)	目標117,496 (38期比-1%)	目標116,309 (38期比-2%)	目標115,122 (38期比-3%)
	ガソリン使用量 (L)	目標2,864 (38期比-1%)	目標2,835 (38期比-2%)	目標2,806 (38期比-3%)
	二酸化炭素排出量 (Kg)	目標61,641 (38期比-1%)	目標61,018 (38期比-2%)	目標60,396 (38期比-3%)
資源のリサイクル(3Rの推進、廃棄物等の削減)	一般廃棄物 (Kg)	目標357 (過去3年平均361kgの-1%)	目標354 (過去3年平均361kgの-2%)	目標350 (過去3年平均361kgの-3%)
	産業廃棄物 (Kg)	目標28,770 (38期比-1%)	目標28,480 (38期比-2%)	目標28,189 (38期比-3%)
省資源の推進	上水道使用量 (m ³)	目標1,272 (38期比-1%)	目標1,260 (38期比-2%)	目標1,247 (38期比-3%)
	コピー用紙使用量 (枚)	目標49,995 (38期比-1%)	目標49,490 (38期比-2%)	目標48,985 (38期比-3%)
環境汚染の防止	グリーン購入の推進 (数)	目標5品目購入 実績(達成)	5品目購入	5品目購入
	化学物質の使用量・ 排出量の削減 (フィルム削減率 (描画率)) ※廃酸・廃アルカリ削減	目標73.0% (38期比(-1%))	目標73.0% (38期比-1%)	目標73.0% (38期比-1%)
生産活動での環境負荷の低減	不良損失金額率/売上げ比 (%)	目標1.74%	不具合件数 39期比-50%	不具合件数 40期比-50%
地域社会との協調・連携	環境ボランティア活動の実施(回)	年1回実施	年1回実施	年1回実施
生産活動での環境負荷低減 ※基板材料削減	不具合情報等伝達/ 対策実施	不具合情報伝達 各部門5件/月	不具合情報伝達 各部門伝達5件/ 月 対策の実施1件/ 月	不具合情報伝達 各部門伝達5件/ 月 対策の実施2件/ 月

5. 環境活動計画(今期 39期)

環境目標	取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	電力監視システムのデータにより電力のピークデマンドを抑える (省エネ法改正事項…努力義務) 電力監視システムのデータからポイント押さえて取り組む
ガソリン使用量の削減(L)	毎月のガソリン使用量の把握 エコドライブ等継続実施 ・発進時、急加速しないようにする ・月に1回タイヤの空気圧をチェックし記録する
二酸化炭素排出量の削減(Kg)	大きな影響を及ぼす、電気とガソリンに注力して削減する
一般廃棄物の削減(Kg)	外注業者から入る合紙やビニールで不要なものは断る・返却する ごみの分別を再認識する(分別表作成) 古紙はリサイクル業者に移管する ビニール袋の分別、再利用
産業廃棄物の削減(Kg)	フィルム描画率アップによる定着液、フィルムの削減、 金属類の分別回収リサイクル
上水道使用量の削減(m ³)	引き続き以下の項目を実施 生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理 使用量の把握を一ヶ月毎に監視
コピー用紙使用量の削減(枚数)	マルチファンクションプリンタの導入によるスキャナーの有効活用 (社内データのソフト化の推進) イントラネットの有効利用を促進 裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施
グリーン購入の推進(数)	設備に注力し、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入
化学物質排出量の削減(%)	描画フィルム利用率を低減し、廃酸・廃アルカリの排出量を定量的に把握し削減する
不良損失金額率の低減(%)	引き続きヒューマンエラー対策を実施していく ・ISO9001: 2015 を適用し仕事のやり方の品質を向上させる ・外部供給者評価基準を明確にし、評価するとともにポカミスの少ない業者を選定する
不具合情報等伝達/受信/対策実施(回) (コミュニケーションの活性化)	仕事のやり方等の不具合情報の伝達を迅速におこない不良を低減する (間接的に基板材料を節減する)
環境ボランティア活動の実施(回)	地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び 会社周辺の清掃をおこなう 地域行事に協賛企業として参加する

2016年11月 鶴見川・会社周辺清掃のときの写真です



6. 環境目標の実績値・取組結果とその評価(今期 39期)

購入電力の排出係数: 0.463 (kg-CO2/kwh)

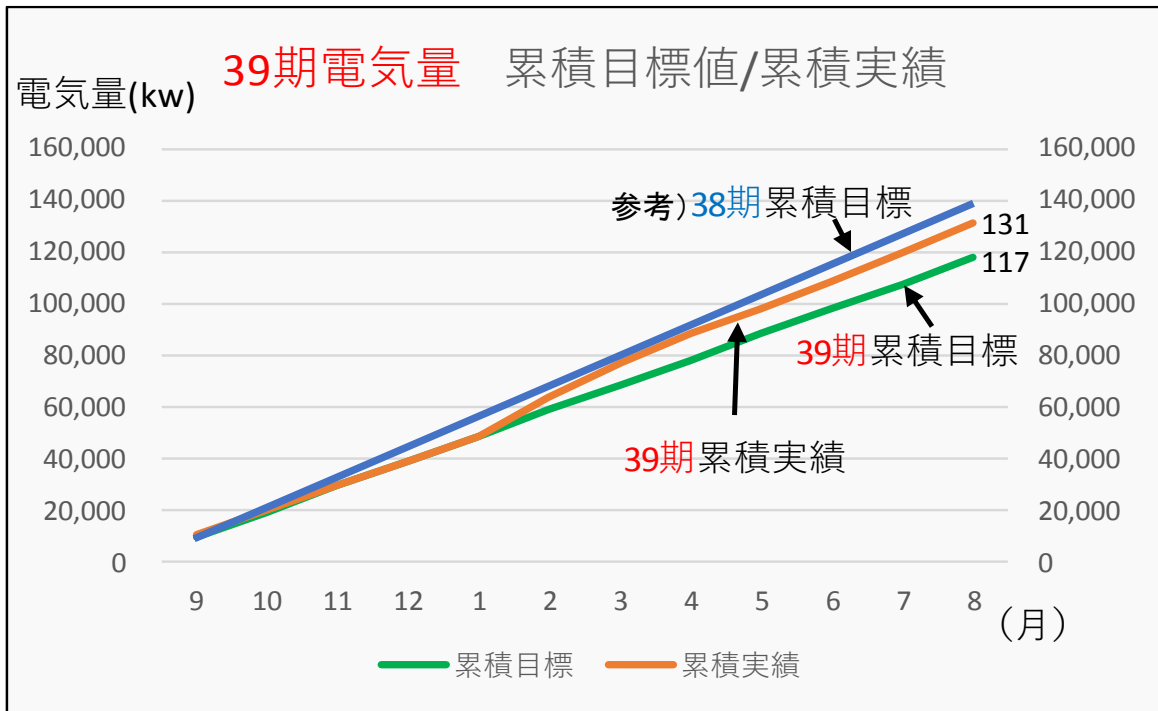
環境目的	環境目標	39期 目標値	39期 実績値	取組結果 (+が未達)	評価
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量の削減 (Kw)	117,496	131,581	+12%	× 注1)
	ガソリン使用量の 削減(L)	2,864	2,471	-14%	○
	二酸化炭素排出量の 削減(Kg)	61,641	67,343	+9.2%	× 注1)
資源のリサイ クル(3Rの推 進、廃棄物等 の削減)	一般廃棄物の削減 (Kg)	357	344	-3.6%	○
	産業廃棄物の削減 (Kg)	28,770	26,960	-6.3%	○
省資源の 推進	上水道使用量の削減 (m ³)	1,272	1,300	+2.2%	× 注1)
	コピー用紙使用量の 削減(枚)	49,995	44,500	-11%	○
環境汚染の 防止	グリーン購入の推進 (数)※主要設備	8品目購入	8品目購入	目標数を 購入済み	○
	化学物質 排出量の削減 (描画フィルム 利用率(%))	73%	71%	+2%	× 注2)
生産活動で の環境負荷 の低減1	不良損失金額率 の低減(%)	1.74%	2.60%	+49%	× 注3)
生産活動で の環境負荷 の低減2	不具合情報等伝達/ 対策実施(回) (コミュニケーション の活性化)	各部門 5件	各部門 5件	5件達成	○
地域社会と の協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	年1回実施	年1回実施	実施	○

注1) 基板生産枚数の増加と広いスペースの有効利用をおこなったため電氣量が増加しCO2排出量も増加しました。(次ページグラフ参照)
また、水使用量においても生産枚数が増加したことが主要因です。

注2) 描画フィルム利用率は、ほぼ定常状態になっていますが有効度が高いため継続しました。

注3) 技術的に難しく数量の多い基板製造へのチャレンジがあり未達となりました。

電気量の目標値と実績のグラフ



7. 環境活動計画(次期 40期の取組内容)

環境目標	次期取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001の認証を取得しより具体的な社内改善を通し製品品質の向上を図る ・電力監視システムのデータによりポイントを把握しかつ電力のピークデマンドを抑える(省エネ法改正…努力義務) ・エアコンのフィルター清掃を強化する
ガソリン使用量の削減(L)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のガソリン使用量の把握 ・燃費のよい車種を優先して使用する ・発進時、急加速しないようにする
二酸化炭素排出量の削減(Kg)	大きな影響を及ぼす、材料と電気量に注力して削減する
一般廃棄物の削減(Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・外注業者から入る合紙やビニールで不要なものは断る・返却する ・ごみの分別を再認識する(分別表作成) ・古紙はリサイクル業者に移管 ・ビニール袋の分別、再利用
産業廃棄物の削減(Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルム描画率アップによる現像液・定着液、フィルムの削減、 ・金属類の分別回収リサイクル
上水道使用量の削減(m ³)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き以下の項目を実施 ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理 ・使用量の把握を一ヶ月毎に監視
コピー用紙使用量の削減(枚)	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用(社内データのソフト化の推進) ・イントラネットの有効利用を促進 ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施
グリーン購入の推進(数)	設備類に注力し、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する(グリーンラベルを含む)
化学物質排出量の削減(%)	描画フィルム利用率を低減し、フィルム自体の削減及び間接的に廃酸・廃アルカリの排出量を削減する
不良件数の低減(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・前期データより不良件数の多い順に対策をおこなう ・ISO9001: 2015の認証を取得し仕事のやり方の品質向上を図る ・外部供給者の評価基準を明確にし、評価すると共にボカミスの少ない業者を選定する ・要注意基板の製造においては関係者に事前に要点をアナウンスする
不具合情報等伝達/対策実施(回) (コミュニケーションの活性化)	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の業績又は結果を著しく向上させる活動としてコミュニケーションが挙げられる ・今期もコミュニケーションを意識して会社全体の品質向上を図る ・ISO9001の認証取得にともない、環境委員会において基礎的事項の補完をおこなう
環境ボランティア活動の実施	引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていく また地域行事に協賛企業として参加する

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無

環境関連法規への遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。

主な適用法規制	内 容	遵守状況
下水道法	公共下水道排水の定期分析異常なし(横浜市の監査あり)	○
騒音規制法	地域住民からの苦情なし	○
土壌汚染対策法 水質汚濁防止法	特定有害物質有り(対策の実施、申請済み)	○
悪臭防止法	対象物質なし	○
廃棄物処理法	指定回収業者定期点検 マニフェストの管理	○
フロン排出抑制法	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化(点検済み)	○
PCB特措法	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進	○
横浜市及び 神奈川県 条例	A除外施設問題なし 資格者保有	○
毒物及び 劇物取締法	「劇物」の場合は表示 保健衛生上の見地から必要な取締を行う	○
製品含有化学物質 管理	RoHS2/J-Moss、REACH SVHC(含高懸念物質) コンゴ民主共和国等産出の紛争鉱物	○

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

前期は3カ年計画の最初の年でしたが、次の2つの理由によりCO2排出量が前年比約8%増加しました。

※当社のCO2排出量における電気量の依存度は約90%になっています。

1. 基板生産枚数が増加しました(前年比8.9%)
※生産枚数と電気量との相関係数は0.5以上あり、中程度の相関となっています。
2. 生産管理課と営業部は共用の部屋でしたが、営業部のみ広めの事務棟へ移動したことにより、大型のエアコン、照明、ガスの使用量が加算されました。

上記により今後の目標設定値の適切性・妥当性及びさらなる継続的改善において課題を残しましたので3カ年計画を再度見直す必要があります。

さらなる継続的改善として次の取り組みを行います。

1. 基板材料の節減・電気量の低減(不良件数低減)
 - ・来期はISO9001の認証を取得し、抜本的かつ具体的な社内改善と共に製品品質の向上を図ります。
 - ・部門間の「コミュニケーションの活性化」により、ISO9001を補完し品質情報交換を促進します。
 - ・ヒューマンエラー対策を強化します。
2. 廃液移送時の安全・安心の維持・向上
酸・アルカリ廃液等の移送に関し、立会い及び教育訓練を継続して実施します。
3. 製品含有化学物質管理
RoHS II、REACH等の管理を強化していきます。

引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていきます。また地域行事に協賛企業として参加します。

2017年9月5日
代表取締役 今井 俊夫

